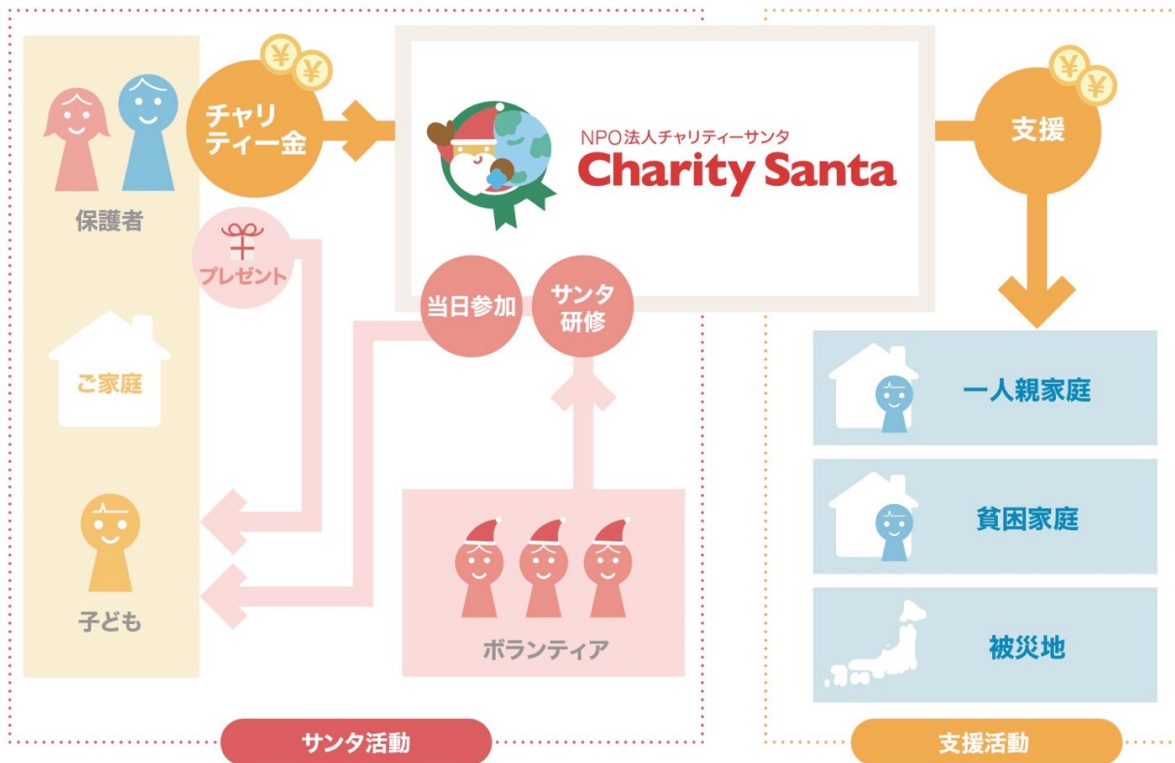


Withコロナ時代における 困窮家庭の子ども「体験格差」 調査事業

NPO法人チャリティーサンタ
代表理事 清輔(きよすけ)夏輝

団体紹介

ミッション：子どもたちに、愛された記憶を残すこと
ビジョン：子どものために大人が手を取り合う社会



全国の家・施設などにサンタ(ボランティア)を派遣し、子どもたちに「クリスマスの特別な思い出・体験」を届ける取組。一般家庭は有償、困窮家庭は無償。述べ4万人を超える子どもに届ける。

その他、全国500書店&120の子ども支援団体と連携し、新品の本を子どもたちへ届ける取組も行う。昨年は3.5万冊の寄付が集まる。

■団体略歴

- 2008 活動開始
- 2014 NPO法人化
- 2015 困窮家庭支援
- 2016 調査開始・白書
- 2019 岡山市協働開始



※30都道府県42支部で活動（2021/12時点）

※特定の国や宗教とは関係ありません

背景と目的

①新型コロナの慢性化に伴う、困窮世帯の家庭の状況を明らかにするとともに、子どもの体験の不足感や保護者の喪失感の状態を確認する。

✔ 一般家庭と比較

✔ 世帯毎の子どもの人数による影響

②「子どもの体験や思い出」を支援する団体として、今後の活動の指標となる数値を調査する。特に「子どもの誕生日」について確認する。

調査時期：10～12月

調査方法：オンラインアンケート

対象者：

メイン対象：困窮家庭

経済的困難を抱える子育て家庭【2,118世帯】

比較対象：一般家庭

サンタ訪問活動(有償)の利用家庭【876世帯】

※主に2～10歳程度の子どもがいる家庭。

エリアは約30都道府県。

【困窮家庭】子ども人数別の家庭数(実数の内訳)

1人	2人	3人	4人	5人	6人	合計
1107	677	245	63	17	9	2,118

【一般家庭】子ども人数別の家庭数(実数の内訳)

1人	2人	3人	4人	5人	6人	合計
280	394	134	44	15	9	876

概要

困窮世帯においては、新型コロナの影響以前からイベント等への参加のしづらさ、情報の欠如等、孤立しがちな状況にある。また、金銭的・時間的制約から親子がともに過ごす時間を十分に持ちづらく、心の安定や子ども・親の自己肯定感が育ちにくい状況にある。そのため、自己肯定感が低いために、将来への希望や選択肢を持たないまま成長することが貧困の連鎖を断つことを困難にする一要因となっていると考えられる。

新型コロナの影響を受け、その影響が慢性化するなかで「体験」においては金銭的にかかる部分においては補えない分、格差が生じていると考えられる。withコロナのなかでの、困窮家庭の体験のあり方と、どのようになれば支援を受けられるかを明らかにする。

申請時点で設定した仮説

2020年においては、経済的な余裕に関係なく大半の家庭において体験活動が自粛されていたことが、2021年に入ってから「体験の格差」が大きく出ているのではと想定。

コロナ禍で「してあげたかった（けれどしてあげられなかった）」エピソード

「外でご飯を食いたいと言ってきても、新しい服が欲しいと言われた時も、子供が求めている事にほとんど応えることができなかった。その為子供は、どうせ言っても無理だから、と要求してこなくなりました。それが申し訳なくて辛いです。」

「おまつりや地域のイベント、無償や安いイベント等も無くなり、無料で行ける動物園や水族館等も行けない期間や、予約出来ないに行けなくなったり…。お金が無い家には安全に出かける場所も無くなりどこにも連れて行ってあげることが出来なくなりました。住まいが古く汚い都営住宅ですし、スペースも無く散らかっているのでオンラインイベントに参加する事も躊躇してしまい申し込む勇気はありませんでした。」

「もし感染してしまったら、仕事を休まなければならないので収入は減るし、何より命を危険に晒すことはできません。家族の人生全てが、ひとり親である私の肩にずっしりとかかっています。」

「私が体調を壊し、働けなくなり、日々の生活が大変苦しくなってしまいました。子供はもし私がいなくなるのなら、自分も一緒に死にたいと泣きながら寝ます。私もとても辛いです。」

調査結果：1年間で行った物事

「誕生日のお祝い」「公園で遊ぶ」は同水準だが「家族旅行」は10倍、「外食」は4倍の差に。

■この一年間でおこなったものでみると…

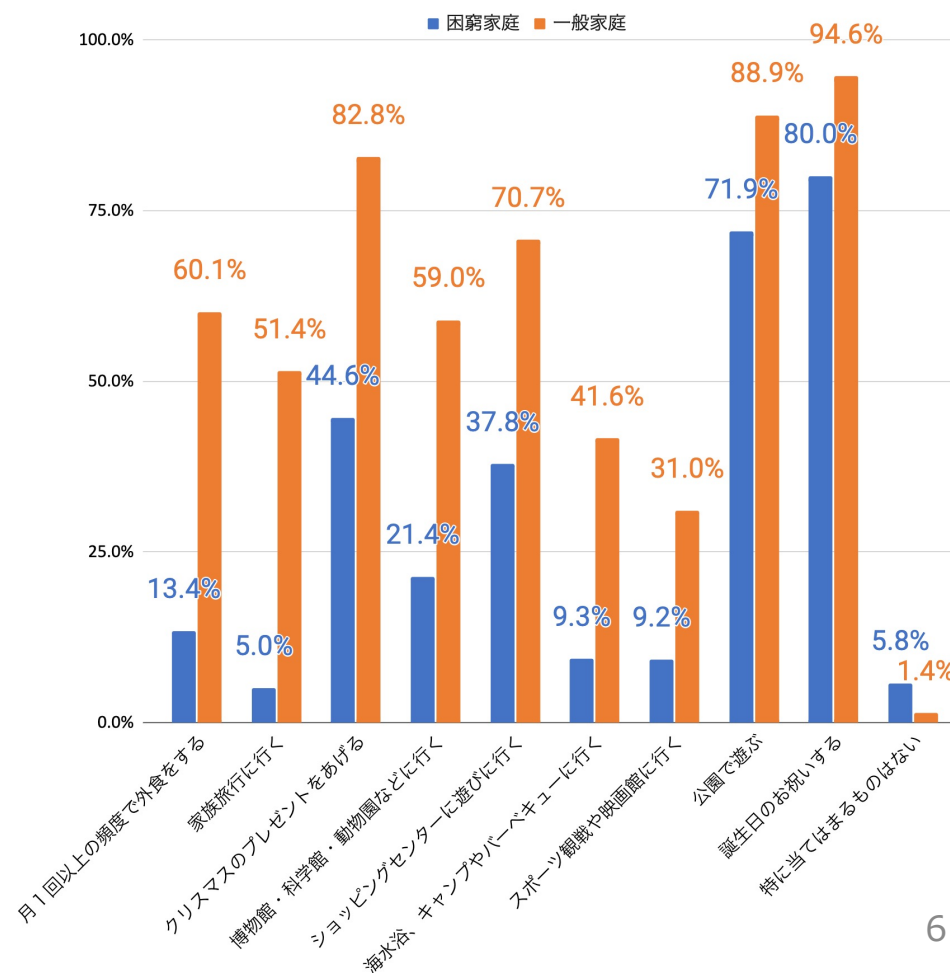
・各項目で顕著な差が出た。「公園で遊ぶ」といった無料で身近なものですら差がある。困窮家庭の親が時間の余裕がないという大きな理由もあるが、定性コメントには『ひとり親のため、万が一コロナ罹患してしまった場合を考えると恐怖で外出ができない』といった不安からくる理由も散見された。

・困窮家庭の55.4%が「クリスマスプレゼントをあげていない」と回答。

・困窮家庭において、「外食」「家族旅行」「クリスマス」「博物館など」は子どもが増えることができなくなる傾向がある。一方で「誕生日」は子どもが増えても影響がない＝それだけ家庭内でのなくてはならない行事と位置づけ。

・一般家庭において、子どもの人数が増えることができなくなる傾向があるのは「外食」のみで、他は影響がない。

家族での過ごし方について、この一年間で行ったものに当てはまるものにチェックをお願いします。（複数回答可）



「イベント」「支援・サービス」は同水準だが「おもちゃ購入」「書籍購入」は5倍の差に。

■家庭の中で足りなかったことでみると…

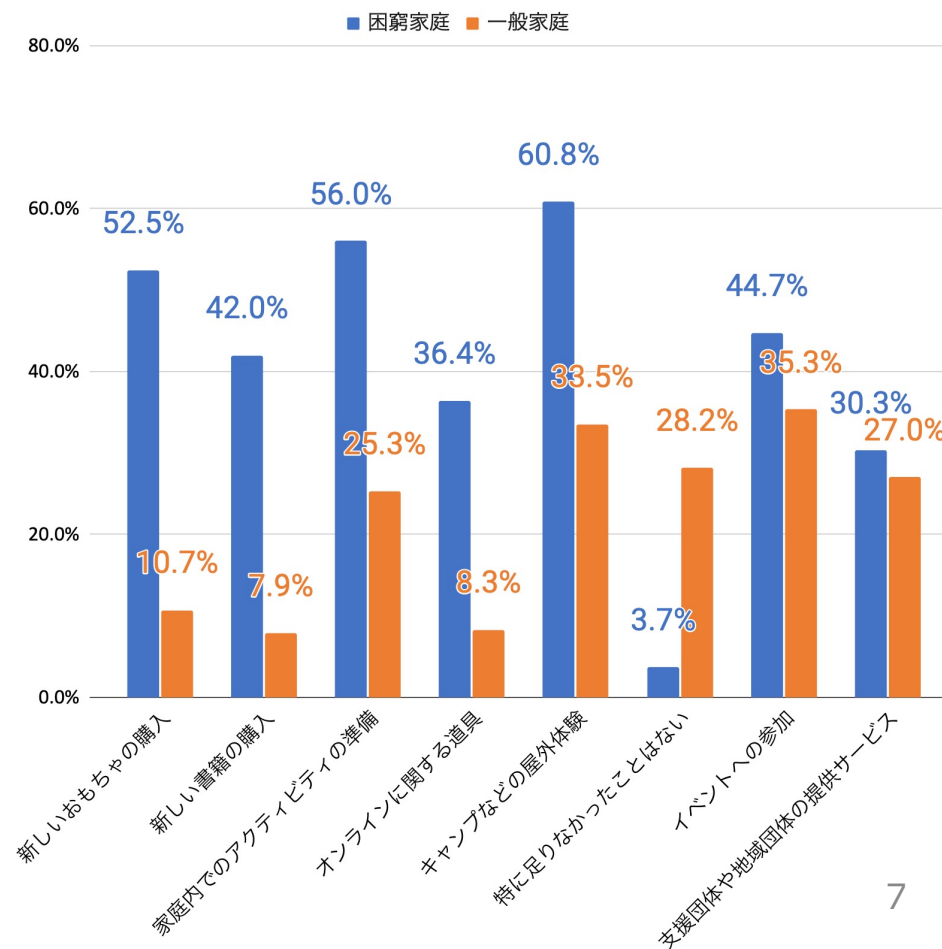
・各項目で差が出たが顕著だったのは「新しいおもちゃの購入」「新しい書籍の購入」「オンラインに関する道具」となった。

・一般家庭で最も低かった（＝足りていた）のは「新しい書籍の購入」となり、家庭内で過ごす事が増えた中で必要性は高まったはずだが、金銭面の都合さえつければ、オンライン書店などから簡単に手に入るため低くなっていることが想像される。「新しいおもちゃや遊び道具の購入」も同様の傾向となった。

・金銭的に解決できることである「新しい書籍の購入」「新しいおもちゃや遊び道具の購入」がどちらも5倍以上の差が出ており、この結果に一般家庭と困窮家庭の経済的な格差がしっかりと示されたと言える。

・一般家庭の約3割（28.2%）が「特に足りなかったことはない」と回答したことにも注目したい。最も格差を感じさせる結果かもしれない。

新型コロナ以降、家庭の中で足りなかったこと（用意・利用ができなかった）を選択してください。（複数選択可）



2019年と現在のしんどさを比較すると、元々きびしい状況にあった困窮家庭がさらにしんどさを増している可能性

■生活のしんどさ（10点満点）でみると…

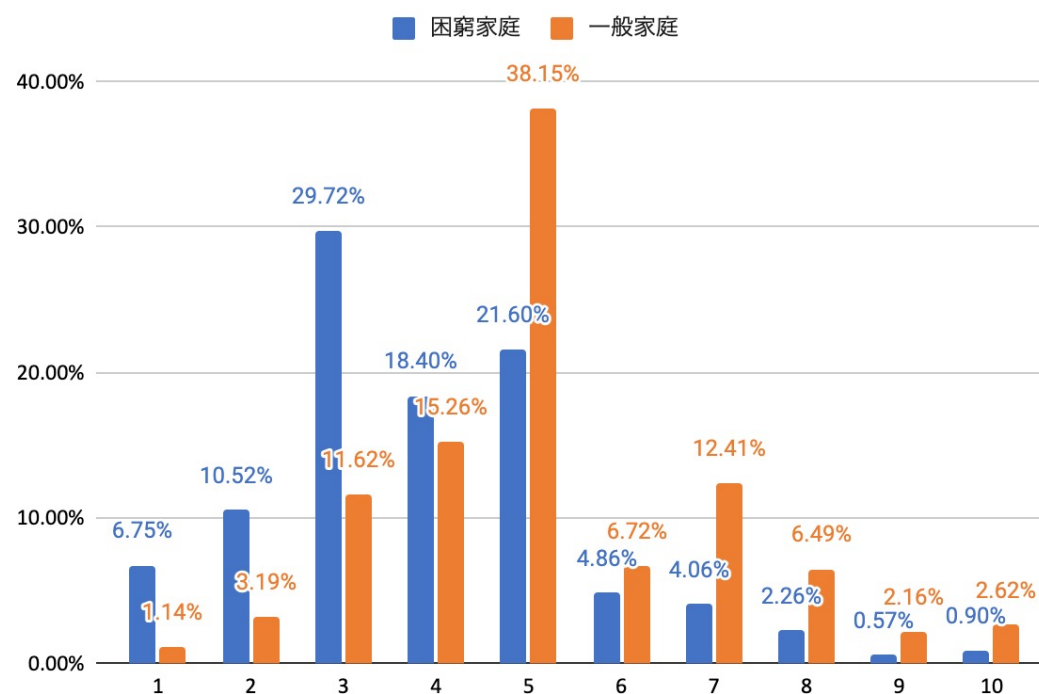
・（2019年と比較して）生活状況が改善したのは、困窮家庭が13%、一般家庭が30%

・悪化したのは困窮家庭が65%、一般家庭が31%。一般家庭でも3割はしんどくなったと回答している。

・もともと困窮していた家庭やギリギリのところではふんばっていた家庭がよりしんどくなっている可能性がある。

・子どもの人数による差異は見られなかった。

2019年の生活を10点満点で5点とした時に、現在の生活のしんどさを教えてください。（例:良くなった場合7点、変わらない:5点、悪化した場合:3点など）

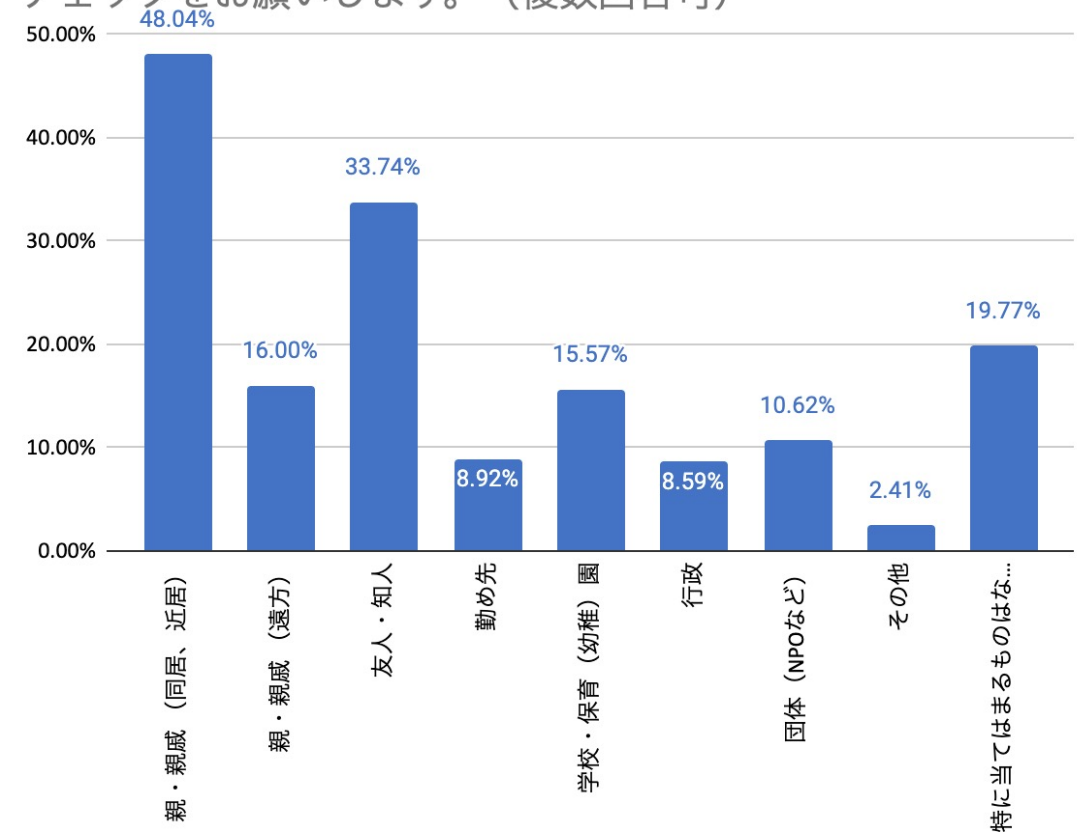


頼れる相手は、身近な親・親戚、友人・知人、学校などの順となり、距離的な近さと「顔が見える相手」であることが影響

■困ったときの頼れる相手でみると…

- ・20%が「特に頼れる相手がない」と回答。
- ・困窮家庭が困った時に頼れる相手「団体（NPOなど）」と回答したのは10%に留まる。
- ・回答者の属性として、弊団体以外にも他NPOとつながっている割合が45%以上ある中で、信頼できる先に挙げられていない。行政・学校など組織で対応するところと、親戚・友人など個人としても、どちらともつかない位置付けに見られている可能性。
- ・クロス集計でみると、頼れる相手がないとしんどさが高くなる傾向となる。弊団体でもこういった層へ意識的にアプローチをしていくなどを検討していく。

困り事があった際に頼れる相手について、当てはまるものにチェックをお願いします。（複数回答可）



調査結果：誕生日の準備（プレゼント）

誕生日の準備について、困窮家庭は3割はプレゼントを諦め、2割がケーキを諦めている。

■お子さんの誕生日の準備したもの【プレゼント】でみると…

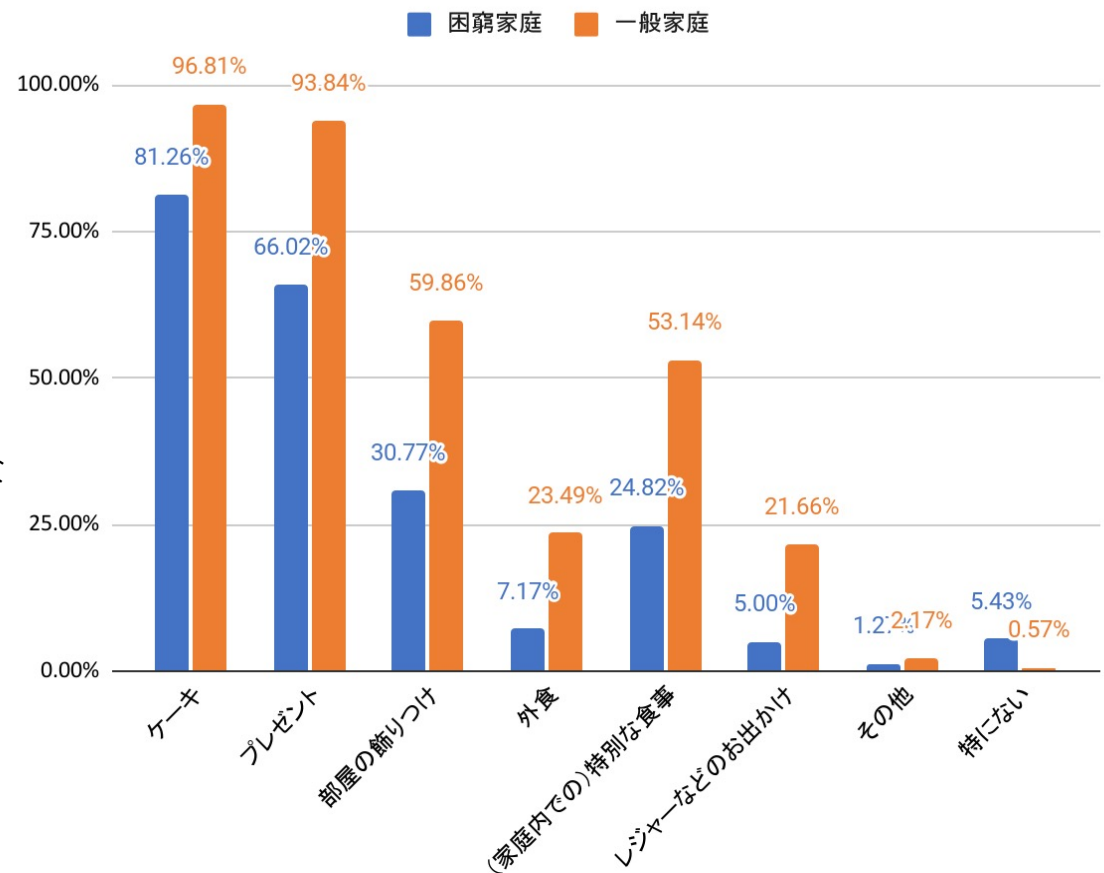
・各項目で差が出たが顕著だったのは「レジャーなどのお出かけ」「外食」「（家庭内での）特別な食事」となった。

・困窮家庭のプレゼントは、子どもの人数が増えるほど準備できなくなる傾向。一方、一般家庭は人数による影響はなかった。

・困窮家庭の5%は、誕生日を一切お祝いしていない。対して、一般家庭は0.6%で約10倍の差。

・定性コメントには、親からの悲痛な叫びや自責の念に押し潰されそうな様子も散見された。

お子さんの誕生日の準備について、行ったもの・準備したものを教えてください。（複数選択）



調査結果：誕生日の準備（ケーキ）

誕生日の準備について「ケーキ」は、一般・困窮家庭ともに何よりも優先して準備するものとなっている。

■お子さんの誕生日の準備したもの【ケーキ】でみると…

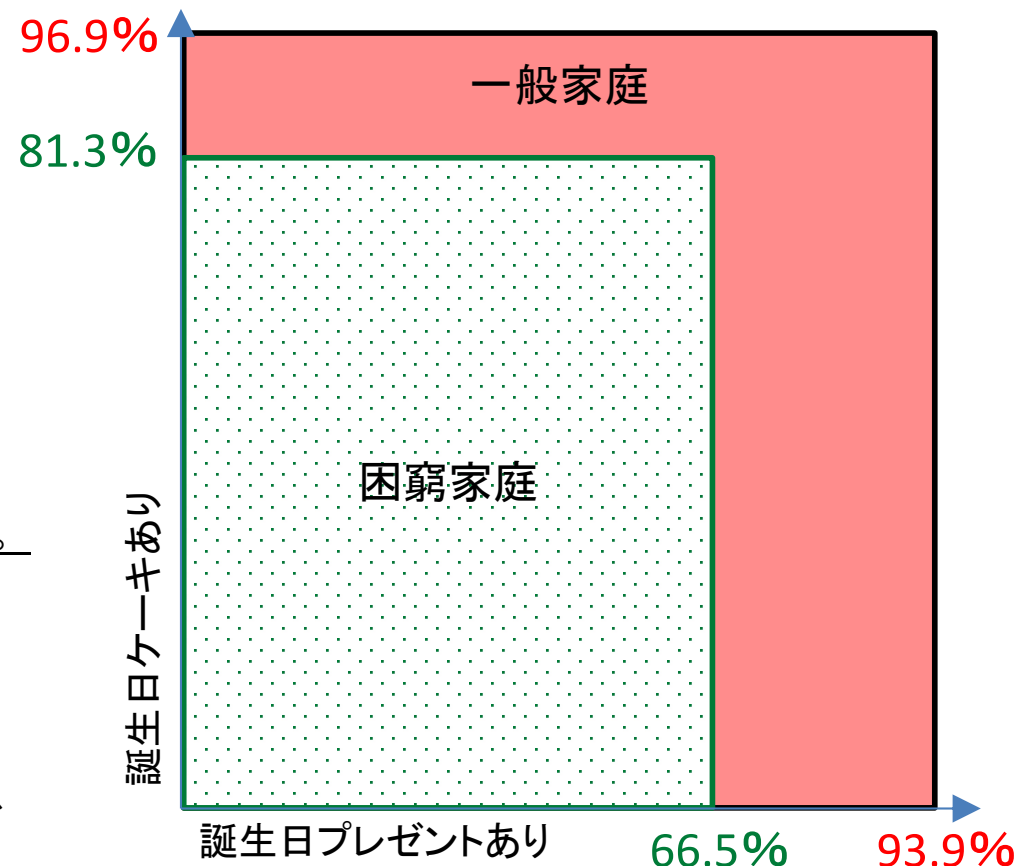
・どの項目でも一定の差異があるが「ケーキ」が最も肉薄。定性コメントでもケーキだけはなんとか準備しようという様子があった。

・一般家庭でケーキを準備していない3.1%をみると、ケーキ不要の乳児や（一般枠で回答しているが実質的には）困窮家庭であることが大半。実質的には限りなく100%に近い家庭が準備している。

・ケーキは、子どもの人数が増えても影響はなかった。

・定性コメントでは「ケーキのみ準備してプレゼントは準備できなかった」「ケーキの支援があったためプレゼントの予算が捻出できた」などの声もあった。

※ケーキについての予算など詳細が不明瞭だったため、現在追加調査を実施中。



誕生日の準備する感情について、「切ない」は7倍、「しんどい」は5倍の差に。

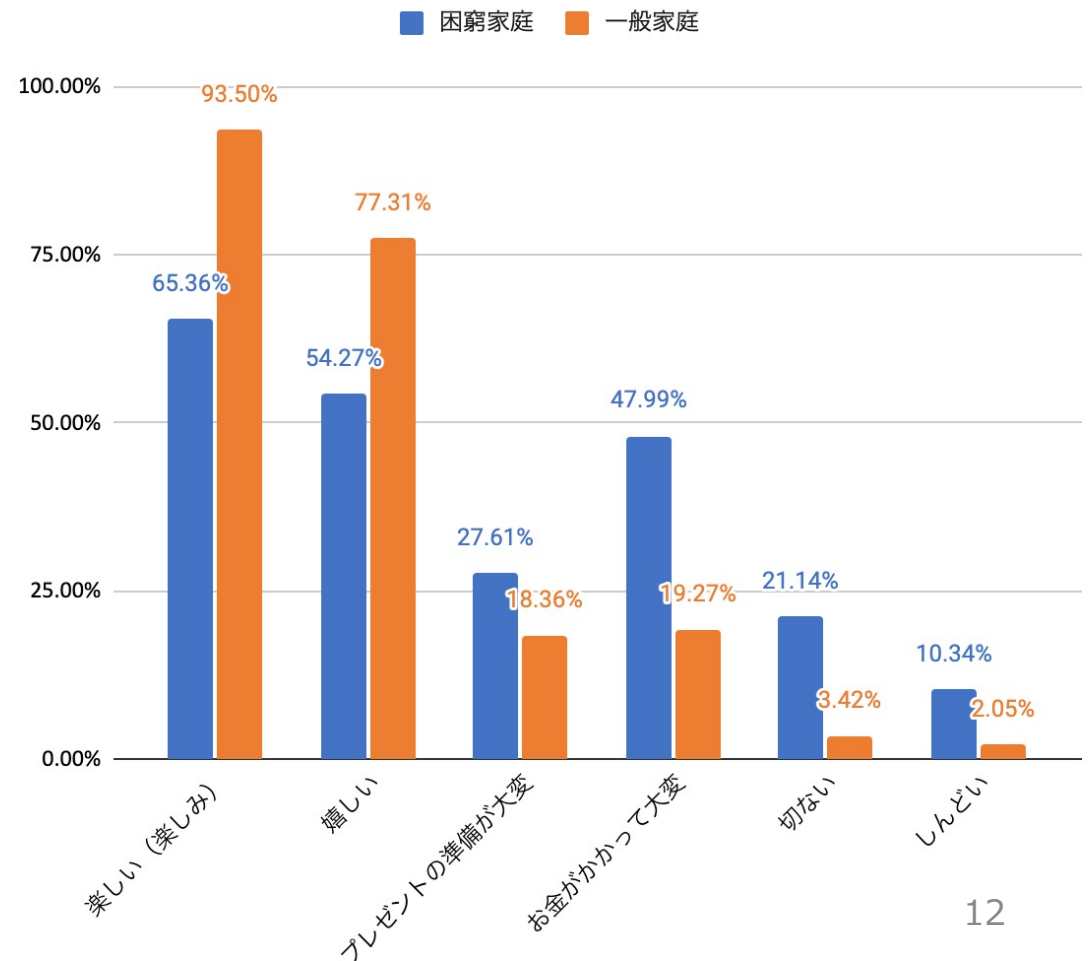
■お子さんの誕生日の準備する際の感情でみると...

・困窮家庭は、相対的に「楽しい」「嬉しい」が減り、「切ない」「しんどい」「お金がかかって大変」が増える傾向がわかった。

・困窮家庭は、子どもの人数が増えると「楽しい」「嬉しい」は減り、「お金がかかって大変」は増える傾向。それに対して、一般家庭は子どもの人数が増えると「楽しい」「嬉しい」が増える。

- ・「切ない」は21%が感じる（一般家庭の7倍）
- ・「しんどい」は10%が感じる（一般家庭の5倍）

お子さんの誕生日を準備する中で、どのような感情になったかを選択してください（複数選択）



■コロナ禍の体験調査まとめ

コロナ禍になり、子育て家庭の中でも困窮家庭がよりしんどくなり、様々な子どもの体験を諦めている割合が相対的に高い。同時に、保護者は諦めさせた経験を通じて、親子ともに劣等感やあきらめを感じることが明らかに増えている。（今後も継続する可能性が高い）

■団体として今後取り組むこと

優先度が最も高い「困窮家庭の誕生日の支援」に注力。

ケーキ店と連携し「誕生日ケーキ」を困窮家庭に届ける新しい支援事業の構築（岡山・広島でテスト実施中→順次エリア拡大）

現在、誕生日に関する追加調査の報告予定。3/16（水）15-16時半に「誕生日支援」をテーマにオンラインイベント内で報告。（岡山市子ども福祉課との協働事業として開催）

→ 詳細 & 申込はQRコードより

